

中河内ブロック支援通信

R7年1月7日、八尾支援学校を会場に、「R6年度 支援教育地域支援整備事業 第2回中河内ブロック研修：講演」が行われました。

すべての子が「適切に社会とかかわり、よりよい人生を送る」ために

講師:早稲田大学・大学院講師 小西 好彦先生

【講師プロフィール】

法務省矯正局法務教官矯正専門職 矯正局研究課程研究科修了
元 奈良少年刑務所 法務教官教育専門官・滋賀刑務所 教育専門官
現在 医療法人スマイルクリエイター顧問、早稲田大学・大学院他、
大学・教育委員会・福祉センター等で講義や研修の講師を兼務。



「困った子は困っている子」と言われるように、問題行動の背景には必ず本人の「SOS」や「訴え」があります。

小西先生のご講演では、認知行動療法の考え方に基づいてなぜその行動が生じるのかについてや、適切な関わり方について具体的な例を用いながらお話ししていただきました。

当日は中河内ブロックの学校園から250名もの方が小西先生の貴重なお話に深く聴き入り、頷いておられました。



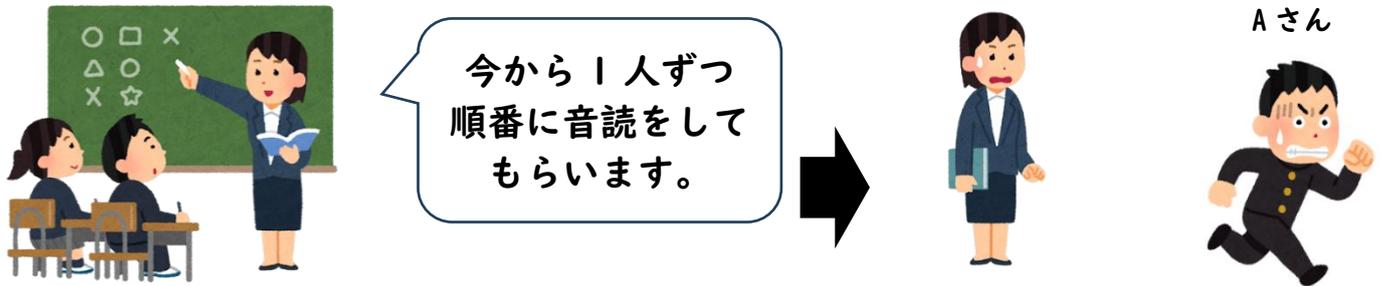
【参加者のアンケートより（一部）】

・気になる行動を見つけたとき、否定的に見てしまいがちだが、声のかけ方も含め肯定的に捉えていくことや認知と感情を整理していくことなど改めて考え直す機会となりました。

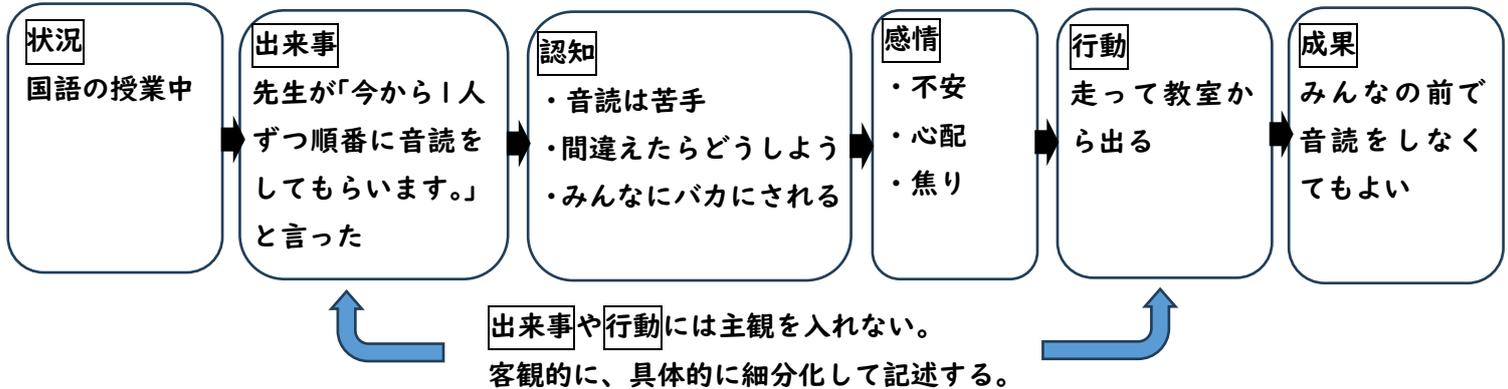
・応用行動分析についてくわしく手順を教えていただき、客観的に書くところと主観で推測するところなどが分かりやすく勉強になりました。また、聞き手の心の持ちようについても体験を踏まえて教えていただけたのでよかったです。

小西先生のお話から、学校現場で活用できるアセスメントの方法と支援について

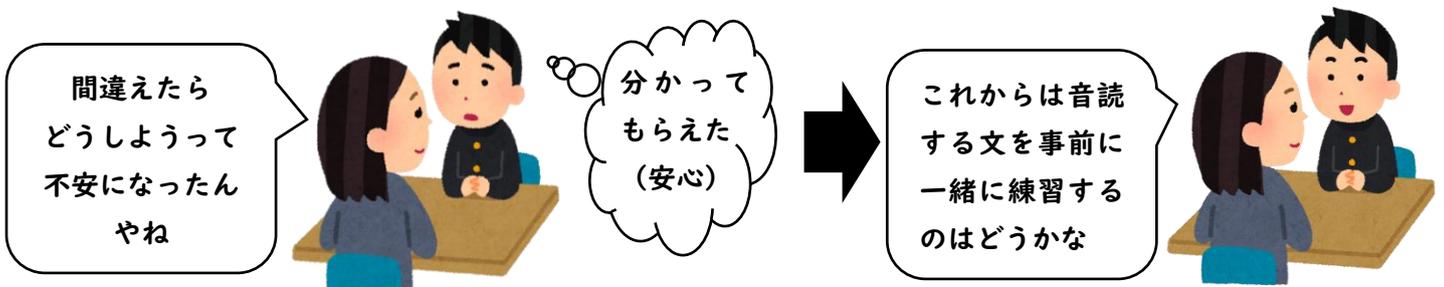
(例) 国語の授業を受けているAさん。先生が「今から1人ずつ順番に音読をします。」と指示を出すと、Aさんは教室から飛び出してしまいました。



アセスメントのフレームを用いてAさんの行動を分析すると…



【支援のポイント：行動ではなく、感情にアプローチすること】



話を聞くときの姿勢：理解しようと話を聞く。最後まで聞く。
相手の感情を受容し、言語化して伝える。

【小西先生より】



丁寧に寄り添い、自分の気持ちに気づき、それを表現して受け止めてくれる人がいれば、子どもは必ず立ち直っていく。

子どもたちを支援する皆さんが、子どもたちに希望と可能性を信じていることが大前提です。大切なことは、

- (1) 子どもたちが何気ない会話を通して、一人ぼっちではないことを体感すること。
- (2) 温かい言葉を受ける経験をする。
- (3) 話を聞いてもらえる体験をする。